

## 醫學博士布施現之助ノ腦ノ解剖的研究ニ對スル授賞審査要旨

布施現之助ガ腦殊ニ腦幹ノ解剖的研究ニ從事セルコト茲ニ十有餘年此間其成績ヲ發表セル論文左ノ如シ

- 第一 哺乳動物ノ各代表者ノ眼球外旋核ノ局所的關係、微細構造及ヒ中樞連絡
- 第二 人間ニ於ケルモナコウ氏聽線
- 第三 哺乳動物ノ眼球外旋核
- 第四 小腦軸内側部及ビダイテルス氏核
- 第五 第四腦室底ノ線(底線、舊學者ノ聽髓線、ベルグマン氏ノ響桿)ニ就テ
- 第六 人間及ビ二、三哺乳動物ニ於ケル腹側核及ヒ聽隆起
- 第七 橋髓及ビ中樞ノ外側區域
- 第八 第四腦室底ノ解剖補足
- 第九 聽神經傳導ノ徑路及ヒ構造
- 第十 人間ニ於ケル前双丘中ノ廻轉性灰色質即チ前四疊體ノ橄欖核ニ就テ
- 第十一 人腦ノ顯微鏡的解剖圖
- 第十二 人間ノ延髓ニ於ケル二、三ノ個人的ニ著シク異様ナル形象ニ就テ

第十三 猫ニ於ケル二、三ノ異常束ニ就テ

第十四 一犬(グッデン氏法)及ビ三家兔(ニッスル氏法)ニ於ケル赤核ノ解剖實驗的補足

第十五 人間ニ於ケル三又神經脊髓根ニ附屬スル灰色質殊ニロオランドオ氏膠樣質ノ正常解剖補足

第十六 菱樣體解剖ノ實驗的補足

第十七 人間ニ於ケル上橄欖核ト三又神經脊髓根ロオランドオ氏膠樣質トノ間ノ領域(上三又橄欖領域)中ノ從來充分注意セラレザリシ觀アル灰色質ニ就テ

第十八 聽神經中心傳導路ノ內的構造

第十九 哺乳動物二、三ノ代表者ニ於ケル上橄欖核ト三又神經脊髓根殊ニ橋髓側索核トノ間ノ領域中ノ未知又ハ充分注意セラレザリシ灰色質ノ比較解剖的研究

第二十 「ヤマアラシ」(豪猪)ニ於ケル第八腦神經第一終處即チ腹側核及ビ聽隆起ノ顯微鏡的解剖補足

第二十一 「オホカウモリ」ニ於ケル聽神經中心傳導路ノ解剖補足

第二十二 二、三ノ「ヅヅヅエリデエ」ニ於ケル外側蹄係ノ副腹側核ニ就テ

第二十三 「オホカウモリ」ニ於ケル聽神經腹側核ノ内側ニ存スル從來注意セラレザリシ一核ニ就テ

第二十四 犬及ビ家兔ニ於ケルモナコウ氏赤核脊髓束ノ一新終處ニ就テ

第二十五 璉瑁ノ腦幹中ノ珍奇ナル長キ一無髓神經纖維束ニ就テ

第二十六 脊椎動物ノ小腦皮質ニ就テノ研究、第一「スッボン」(髓)

以上二十六編ハ總テ獨逸文ニシテ其中僅カニ數頁ノモノアリトイヘドモ亦第四、第六ノ如キ二百數十頁ニ亘ル大論文アリテ總頁數無慮一千二百ノ浩瀚ナルモノニシテ附スルニ約六百ノ精圖ヲ以テス今此各編ニ就テ其記述ヲ一々抄録スルノ繁ヲ避ケ次ニ二、三ノ最モ著明ナルモノヲ摘記スルコトトセリ

第四ノ論文ハ著者ガ最モ苦心セルトコロノ業績ノ一ニシテ所謂小腦軸内側部トハ索狀體ノ内側ニ位シ下方ハ延髓ノ下部マデ延ビ而シテ上方ハ小腦ノ中へ直續スル領域ノコトニシテ之ヲ構成スル灰色、白色兩物質ガ相編織シテ網様構造ヲナス此領域中橋髓ト小腦トノ移行部ニ當リ大細胞性ノ網様核アリテ之ヲグアイテルス氏核ト稱ス是レ中腦ノ赤核及ヒ延髓ノ側索核ト共ニ實ニ腦幹ノ三大關門タリ著者ハ小腦軸内側部並ニグアイテルス氏核及ヒ其附屬核等ヲ普通解剖學的、比較解剖學的、胎生學的及ヒ實驗解剖學的ニ精確ニ觀察シ又之ヲ普通組織學的(諸染色法ノ反應研究)及ヒ實驗組織學的(其構成物質ニ起ル二次組織變性ノ研究)ニ解析シ數多ノ新知見ヲ舉示シ以テ此等ノ諸領域ノ實相ヲ明カニセリ思フニ是レ先人ノ未ダ達シ得ザリシトコロナルベシ

又聽神經傳導徑路ノ研究ニ就テハ著者カ特ニ努力セル所ニシテ第六ノ論文ニ於テハ從來聽神經終處ノ解剖學ハ斷片的ノモノ、ミナリシガ著者ハ之ヲ統一の立體的ニ觀察シ聽神經第一終處タル腹側核

及ビ聽隆起其他マルチン氏核、イシック氏橋延髓體等ヲ仔細ニ立體的ニ研究シ又此等ト他領域トノ間ノ連絡關係等ヲ精密ニ觀察シ爲メニ聽神經第一終處ハ普通解剖學的ニモ又胎生學的ニモ一新セラレタリト謂フベシ

第九ノ論文ハ内耳ト腦顫顫葉トノ間ニ介在スル總テノ聽神經區域ニ就テノ新シキ解剖學的業績ヲ總合シ自家ノ研究ヲ基礎トシテ之ヲ批判シ多數ノ新事實ヲ加ヘタルモノニシテ若シ世界大戰亂ナクバ一千九百十四年九月瑞西國ベルン市ニ於テ開催セラレベカリシ萬國神經學精神病學及ビ心理學會ニ於テ特別講演トシテ之ヲ報告スベキ計畫ナリキ

第十ノ論文ニ於テハ人間ノ中腦四疊體上丘ノ外側部ニ一未知ノ廻轉性核ノ存スルコトヲ發表シテ之ヲ上丘橄欖核 (*Nucleus olivaris corp. quadrigenini anterioris*) ト命名シ此廻轉性核ハ小腦ノ鋸齒狀核、延髓ノ下橄欖核、三叉神經下行根ノロオランドオ氏灰白質、脊髓ノ後角同名物質及ビ橋髓ノ上橄欖等ト同様ニ一種ノ廻轉性灰色質ナルコトヲ明カニセリ

第十一人腦ノ顯微鏡的解剖圖ニ就テ一言センニ此圖ノ製作ハ一千九百十二年五月萬國腦研究會議 (*International Brain Commission*) 開催ノ際ワルダイエル、エヂンゲル兩氏ノ發意ニ基ク事業ニシテ此大事業ハ固ヨリ一個人ノ成シ遂ゲ得ベキニ非ザレバ斯學ニ堪能ナル學者ニ於テ分擔スルコトナリ其際モナコツ氏ガ延髓ノ部ヲ擔當スルニ當リ特ニ布施現之助ヲ推薦シ兩人共著トナスノ條件ヲ附シテ承諾セルモノナリ

第十六ノ論文ニ於テハ聽神經中心傳導路ニ最モ緊要ナル菱形體ノ灰色物質（細胞群）及ビ纖維分子ヲ動物實驗的ニ解析スルコトヲ試ミタリ蓋シ菱形體ノ灰色、白色兩物質ノ構造ハ今ニ至リテ尙ホ甚ダ分明ナラズ殊ニ動物幼兒ノ菱形體ヲ正中線若クハ其附近ニ於テ垂直截斷シ而モ其動物ヲ永ク生存セシムルコトヲ得タル例ナカリシガ著者ハ此目的ヲ達センガ爲メ數百ノ動物ヲ犠牲ニシテ漸ク只一頭ノ「モルモット」ト一頭ノ鼠トニ於テ完全ニ成功シタリ而シテ此二個ノ貴重ナル材料ニ就キ精査ヲ遂ゲ獲得セル新知見（例ハバ上橄欖核ノ *Nucleus praeolivaris internus* 乃至聽神經腹側核ニ發源シテ錐狀體ニ移行スル纖維）ハ聽神經中心傳導路ノ解剖學ニ重大ノ意味ヲ有スルモノナリ

要スルニ布施現之助ノ業績ハ解剖學一般中最モ人類の機官ニシテ最モ錯綜セル構造ヲ有スル腦髓ノ解剖學上ニ貢獻スルトコロ甚大ナルモノト認ム